

■**葛屋重三郎** **書肆**。反骨精神をもって江戸を代表する出版業者となったが、〈寛政の改革〉によって失意の最期。
つたやじゅうざぶろう
徳川吉宗没・1751＝ 江戸新吉原で生まれる。

・・・・・・1756＝ 5歳：実母と離別、喜多川家の養子となる。

大岡忠光没・1760＝ **9歳**：

・・・・・・1769＝**18歳**：
_引手茶屋葛屋の奉公し、
_初め吉原大門口葛屋次郎兵衛の軒先を借りて、貸本屋を主体に、細見(遊郭案内)取扱所を開き、

田沼意次老中1772＝21歳：
大原騒動・・1773＝22歳：_細見の序文を平賀源内に書いて貰うなどの工夫でかせぎ、
解体新書・・1774＝23歳：***遂に「細見嗚呼御江戸」の版元となり、最初の出版物「一目千本花すまひ」(北尾重政画)を刊行した。**
黄表紙始・・1775＝24歳：_「急戯花之名寄」を発刊、自ら序文を書くとともに、初めて自板の吉原細見「籬の花」を刊行。
雨月物語刊・1776＝25歳：_北尾重政・勝川春草画の豪華本「青楼美人合姿鏡」を発刊、絵本として現在も高い評価を得ている。
・・・・・・1777＝26歳：***初の自力での洒落本「娼妃地理記」を発刊して戯作に乗出し、歌舞伎「夫婦酒替奴中仲」がベストセラーとな**
りて富本正本も手がけるようになる。大門外の五十間道に店を開いて自立。
り
シ**船蝦夷来** 1778＝**27歳**：_主家にあたる鱗形屋の主人が追放の刑になり、没落して行き、
源内獄中死・1779＝28歳：_源内が人殺しで逮捕され、獄中で自殺するなどの事件があったが、
・・・・・・1780＝29歳：***黄表紙・往来物も始めて、大量の出版活動に入る。**
・・・・・・1781＝30歳：_黄表紙評判記「菊寿草」で自板の草双紙を評価され、編者の四方赤良(太田南畝)を初めて訪問、
天明大飢饉始1782＝31歳：_以後南畝を忠臣に、その人脈とも親交。ベストセラーになった「睦月恋の手取」など歌舞伎の富本正本、
蘭学階梯・・1783＝32歳：_「吉原細見」の全株取得に至り、独占販売となるとともに、日本橋通油町に店を構えて中央進出を果たす。
田沼意次失脚1786＝35歳：_自身で編集した北尾重政画の狂歌絵本「絵本八十字治川」「絵本吾妻挾」・喜多川歌麿画「絵本江戸爵」、
寛政改革始・1787＝**36歳**：_自ら撰した喜多川歌麿画狂歌絵本「絵本詞の花」、

初の横綱・・1789＝38歳：北尾重政画絵本「歴代武将通鑑」、喜多川歌麿画狂歌絵本「狂月坊」。この年、高山彦九郎が来店・購入。
異学の禁・・1790＝39歳：_自作の黄表紙「本気真猿浮気噺」、自選「絵本武将略伝」。大坂書物問屋からのクレームで、既刊の狂歌作法書2点が売買差し止めとなる。この年、書物・草紙板行について規制強化の町触れが出され、
混浴禁止・・1791＝40歳：***山東京伝作黄表紙「箱入娘面屋人魚」に“まじめなる口上”を掲載するも、出頭を命じられ、既刊洒落本3点が絶版の上、財産半分没収、作者山東京伝は手鎖五十日となる。滝沢馬琴を迎え、問屋仲間に加**
入。
ラ**スマン来日**・ 1792＝41歳：養母が死去。柳橋の料亭での山東京伝書画会のスポンサーをつとめる。
松平定信引退1793＝42歳：絵入り咄本「戯話春乃山」。馬琴が辞去。
オランダ正月・ 1794＝43歳：小咄本「笑倍噺問屋」「噺の入船」。十返舎一九が食客となる。_写楽を登場させて起死回生を図ったが、
写楽・・・・・1795＝44歳：_時代はすでに大きく変化しており、写楽も直に退場。伊勢松坂に本居宣長を訪ねる。
プ**ートン来航**・ 1796＝**45歳**：
昌平饗始・・1797＝46歳：自作黄表紙「身体開帳略縁起」。脚気が重くなり、_失意の中、没した。